

地域医療連携室だより

令和5年5月春・第33号
大阪府立十三市民病院

病院長 挨拶

平素より、地域の医療機関の皆様には格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

当院は令和2年5月より約3年間にわたって新型コロナウイルスに対する重点医療機関、いわゆる『コロナ専門病院』として新型コロナウイルス入院患者に対応しながら、地域の医療機関の先生方からご紹介いただいた患者に対する一般診療も規模を縮小して行ってきました。そのような中、令和5年3月29日大阪市新型コロナウイルス感染症対策本部会議において「新型コロナウイルスの5類移行と併せて、十三市民病院の『コロナ専門病院』としての役割を終了する」という大阪市の方針、松井市長のメッセージが出されました。これにより、当院は5月8日以降、『コロナ専門病院』の看板を外し、一般診療を拡大しながら、内科2次救急を再開し、HCUも再稼働しました。また、今年度春から医師数は39名から47名に増加しています。

今後は、地域の先生方からの緊急診療要請や入院要請に十分応えていきたいと思っていますので、どうかよろしくお願い申し上げます。



病院長 倉井 修

新副院長 挨拶

令和5年4月より大阪府立十三市民病院 副院長として着任いたしました『重本 達弘（しげもと たつひろ）』と申します。

昭和59年に大阪府立大学を卒業し、大阪府立城北市民病院、大阪府立大学医学部附属病院、熊本大学医学部附属病院集中治療部で研修し、昭和63年から大阪府立城北市民病院麻酔科に勤務いたしました。病院統合により大阪府立総合医療センター救命救急センターに勤務し、その後は大阪府立総合医療センター麻酔科、十三市民病院麻酔科、再び大阪府立総合医療センター麻酔科と勤務してまいりました。このたび6年ぶりに大阪府立十三市民病院に帰ってくることになりました。かわらずよろしくお願いいたします。

コロナ禍もようやく落ち着きを見せてまいりましたので、以前の十三市民病院を取り戻すべく貢献していきたいと考えております。専門は麻酔科であり、夜間・日中を問わず緊急手術が必要な患者様がいらっしゃれば、できる限り対応させていただきますので、いつでもご紹介ください。



麻酔科
重本 達弘

「コロナ専門病院」終了のお知らせ

令和5年5月8日、新型コロナウイルス感染症が、感染症法2類相当から5類に移行されました。当院は、令和2年5月より3年間「コロナ専門病院」として、一般診療に制限を設け、新型コロナウイルス感染症の対応を行ってまいりましたが、5月7日を以って、その役割を終えることとなりました。

今後は専門病院としてではなく、地域の中核病院としてコロナを含めた急性期医療をはじめとした救急医療やがん治療などの提供に職員一丸となって取り組んでまいります。この3年間、地域の医療機関の方々には、当院の診療体制にご理解とご協力を頂き、誠にありがとうございます。この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

新看護部長 挨拶



樋口 尚子

このたび、令和5年4月から看護部長に就任いたしました、『樋口 尚子(ひぐち たかこ)』と申します。この場を借りてご挨拶させていただきます。

市民に信頼され地域に貢献する病院という十三市民病院の理念に基づいて、看護部では人間味あふれる温かな医療を提供できるよう、「みんなに届け、笑顔、やさしさ、思いやり」を掲げ、一人ひとりの気持ちに寄り添った心の通う看護実践を行っています。

COVID-19等の感染症医療だけでなく、大阪府がん診療拠点病院として、がんの早期発見・早期治療に努め、また「赤ちゃんにやさしい病院」として分娩の受け入れにも力を入れています。さらに認定看護師やその他の有資格者の専門的な知識や技術を活かして、チーム医療の実践や外来看護の充実を図っています。また、地域の訪問看護師とのカンファレンスや退院前後の在宅訪問も積極的に行い、患者さまのQOLの向上に取り組んでいます。

コロナ禍を乗り越えて、十三市民病院の看護職員が、これまで以上に思いやりと温かなこころを持ち、患者・家族の皆さまの期待に応えられるよう、看護職員一丸となって努力していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

新小児科部長 挨拶



齊藤 三佳

本年4月から大阪市立十三市民病院小児科部長に就任しました、『齊藤 三佳(さいとう みか)』と申します。

愛媛県出身で、平成5年に香川大学医学部を卒業し、同年に大阪市立大学医学部小児科医局に入局し、2年間の小児科一般・新生児の研修を経て、淀川キリスト教病院(バプテスト病院にも出向)で3年間勤務しました。その後、再度大阪市立大学医学部附属病院勤務となり、そこで研究医・大学院生・病院講師・講師を経て、平成29年4月から十三市民病院で勤務しております。

資格としては博士号・小児科専門医・新生児専門医・新生児指導医・新生児蘇生法インストラクターを取得しております。また私事ではありますが、大学院生、大学生2人、高校生の4人の子供がおり、小児科受診する年齢のお子様とその親御さんが経験されるであろう日常生活に関しても流れがわかるので、医療提供と共にアドバイスができればと思っています。

5月連休明けからはコロナ専門病院の役目も終わり、コロナ禍以前同様の医療体制となっております。十三市民病院が現在の場所に移転後から20年近く尽力された平林医師の後を引き受けることになり、微力ではありますが、地域の先生方と連携させていただきながら、よりよい医療、求められる医療の提供を目指し、川又・犬塚とともに地域に貢献出来ればと思っています。よろしくお願いいたします。

新泌尿器科部長 挨拶



熊田 憲彦

地域の先生方、はじめまして、この4月1日より十三市民病院泌尿器科部長として赴任いたしました『熊田 憲彦(くまだ のりひこ)』と申します。

当院に赴任以前は、20年あまり市立吹田市民病院腎臓泌尿器科にて尿路悪性腫瘍や排尿障害を中心とした泌尿器科領域と、蛋白尿精査から移植・透析までをカバーする腎不全治療全般に関する診療を行ってまいりました。

今後は、これらの領域に加えて、いわゆる common disease を地域におられる先生方や保健師・訪問看護師、ケアマネージャーの方々など、多職種と連携をして包括的に支えさせていただくような活動を目指しております。

一例としましては、排尿関連においては、愛知排尿ケア研究会のような、知識・技術の情報発信源となり、知識や技術を広く普及、啓蒙、教育していくことを目的とするような組織やシステムを構築するなど、地域に根差す市民病院としての役割を果たすとともに、このような活動を通じて微力ではありますが少しでも地域医療に貢献ができればと考えております。よろしくお願いいたします。

新リハビリテーション科 部長挨拶

令和5年4月より、大阪市立十三市民病院リハビリテーション科部長（同整形外科副部長、大阪市立総合医療センターリハビリテーション科副部長兼務）として着任いたしました『青野 勝成（あおの まさなり）』と申します。

平成4（1992）年に大阪市立大学医学部を卒業し、令和4（2022）年3月で医師30年間を経験いたしました。主に整形外科の中でも骨軟部腫瘍外科を専門として修練してきましたが、この30年を節目として、令和4年7月よりリハビリテーション医学を志し、センターのリハビリテーション科の副部長に就任いたしました。

さらに、この春より、センターと十三市民病院を兼務して、最終的にリハビリテーション科の専門医を目指しております。昨今の専門医制度での研修資格が厳しく、火水金と週3日は研修指定機関であるセンターのリハビリテーション科に勤務する必要があります。結果、十三市民病院には、それ以外の実質週2日しか勤務できないことになります。その分、リハビリテーション科だけでなく、整形外科を兼務という形で十三市民病院に貢献したいと考えております。センターと違って、ややこじんまりした病院の印象ですが、逆に医師やコメディカルの距離感が近く、コロナ禍を乗り越えられてきただけあって、とても連携感が強い初見です。年齢に応じた努力を目指しますので、今後とも宜しく願いいたします。



リハビリ
テーション科
青野 勝成

令和5年4月より大阪市立十三市民病院 糖尿病・内分泌内科医員として赴任いたしました『宮崎 祐宗（みやざき まさおね）』と申します。

平成27年に大阪医科大学を卒業し初期研修を行った後、大阪市立大学医学部第二内科に入局し、医真会八尾総合病院、藤井寺市民病院、大野記念病院で勤務しました。それらの病院では、糖尿病診療を中心として勉強させていただくとともに急性・慢性腎不全、血液浄化療法、そのほか多数の内科症例を経験させて頂きました。

新型コロナウイルス感染症も本年5月より5類感染症に移行し、十三市民病院も救急医療など含めて、元の診療機能を再開していくという大きな変化の中で、微力ながら地域医療に貢献させて頂ければと考えております。若輩者ではございますが、皆様のお力になれるように努める所存でございます。今後とも何卒宜しく御願い申し上げます。



糖尿病内分泌内科
宮崎 祐宗

令和5年4月より大阪市立十三市民病院小児科医員として赴任いたしました『犬塚 佳世（いぬつか かよ）』と申します。

平成31年に関西医科大学を卒業後、大阪市立大学医学部附属病院にて初期研修を行い、大阪市立大学医学部附属病院の小児科に入局しました。その後大学病院で1年間、PL病院で1年間勉強をさせていただき、今回入職させていただきました。

まだまだ勉強中の身ではありますが、地域医療に貢献できるよう精一杯診療に取り組んでいく所存ですので、よろしくお願い致します。



小児科
犬塚 佳世

令和5年4月より消化器内科医員として赴任いたしました『原田 優介（はらだ ゆうすけ）』と申します。

医師となり7年目になります。これまで関西医科大学を卒業後、高槻赤十字病院で初期研修を行い、3年目は東住吉森本病院、4年目は大阪市立大学（現大阪公立大学）医学部附属病院、5-6年目は市立柏原病院消化器内科で勤務しており、今回十三市民病院に赴任することになりました。精一杯頑張りますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。



消化器内科
原田 優介

令和 5 年 4 月より大阪市立十三市民病院 外科医員として赴任いたしました『辻尾 元 (つじお げん)』と申します。

平成 26 年に大阪市立大学を卒業し、府中病院で初期研修を行った後、大阪市立大学腫瘍外科(現 大阪公立大学消化器外科学)に入局致しました。その後大阪市立大学医学部附属病院、府中病院で勤務した後、大阪市立大学大学院消化器外科学に入学し消化器癌の研究を行っております。

消化器癌などの悪性疾患や鼠径ヘルニアや虫垂炎、胆石症などの良性疾患など幅広い診療を行えればと考えております。これからは十三市民病院で少しでも地域の皆様のお役に立てるように尽力できればと考えております。何かと至らぬ点多いかと思いますが何卒よろしくお願い申し上げます。



外科
辻尾 元



耳鼻咽喉科
谷口 恵美

令和 5 年 4 月より大阪市立十三市民病院 耳鼻咽喉科専攻医として赴任いたしました『谷口 恵美(たにぐち えみ)』と申します。

平成 30 年に宮崎大学を卒業し、札幌で初期研修を行った後、大阪市立大学耳鼻咽喉科医局に入局しました。大阪市立大学医学部附属病院、淀川キリスト教病院、秋田厚生医療センター、秋田大学医学部附属病院で勤務し、多岐に渡る耳鼻咽喉科症例を経験して参りました。

これからは微力ながらも十三市民病院で地域の皆様に貢献できるよう努力して参りたいと思います。まだまだ勉強中の身であり、いろいろと至らぬ点もあるかと思いますが、ご指導、ご教授のほどよろしくお願い申し上げます。

新地域医療連携室長 挨拶

大阪市立総合医療センターから十三市民病院の地域医療連携室長に着任しました『山之内 明子(やまのうち あきこ)』と申します。

当院では、各科診療やがん検診をはじめ、認定看護師による看護外来、退院後の生活を見据えた多職種による退院支援に力を入れています。また、市民の方や医療機関向けに公開講座を開催しています。コロナが下火になってからは、いきいき健康セミナーや市民公開講座への参加を希望される方も増え、地域の医療機関の方からはセミナー開催を待っているとお声がけいただくなど、当院からの情報発信をお役立ていただいていることを実感しています。コロナ専門病院の役割を終え、これからは急性期病院として市民の皆さまの健康を守れるように、地域の医療機関の方々と連携を深めていきたいと思っておりますので、宜しくお願致します。



山之内 明子

今後の予定

- ・ 令和 5 年 7 月 29 日(土) 市民公開講座「泌尿器科」
 - ・ 令和 5 年 8 月 31 日(木) 第 37 回 十三臨床談話会
- 詳細が決まり次第、ご案内をお送りさせていただきます。

編集 〒532-0034 大阪市淀川区野中北 2-12-27

大阪市立十三市民病院 地域医療連携室

代表電話：06-6150-8000 直通電話：06-6150-8067

